

平成15年度学力向上フロンティア事業実践報告

| | |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 青森県 |
|-------|-----|

学校の概要

| | | | | | | | | | |
|-----|-----------|-----|----|----|----|----|------|-----|-----|
| 学校名 | 五戸町立五戸小学校 | | | | | | | | |
| 学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 3 | 4 | 2 | 3 | 3 | 3 | 2 | 20 | 29 |
| 児童数 | 90 | 100 | 70 | 86 | 97 | 94 | 8 | 545 | |

実践研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本の定着を図る指導の工夫
 —— TT制と教科担任制による学力の充実をめざして ——

2. 内容・方法

(1) 実施学年・教科

TTの実施

- ア 実施教科 国語・算数
- イ 実施学年 1年・3～6年(全14学級)
- ウ 選択理由

- ・ 1年生においては、学習など学校生活への適応を図りながら、読み書きなどの基本である国語科と、児童の学習速度差の出やすい算数科でTT形態をとることで学力の定着を図るため。
- ・ 3・4年生においては、国語と算数が児童の理解度に差が出やすい教科であるとともに、つまづきが目立つ学年であるため。
- ・ 5・6年生においては、国語と算数の習熟をさらに深めるため。

教科担任制の実施

- ア 実施教科 国語・算数・理科・体育
- イ 実施学年 5・6年(全6学級)
- ウ 選択理由

各教科を得意とする教師の専門的な指導により国語科、算数科、理科などの教科の学習意欲を高め、各教科の理解度差に対応することで確かな学力の定着を図るとともに、複数の目で児童の良さをいっそう伸ばすため。

(2) 年次計画

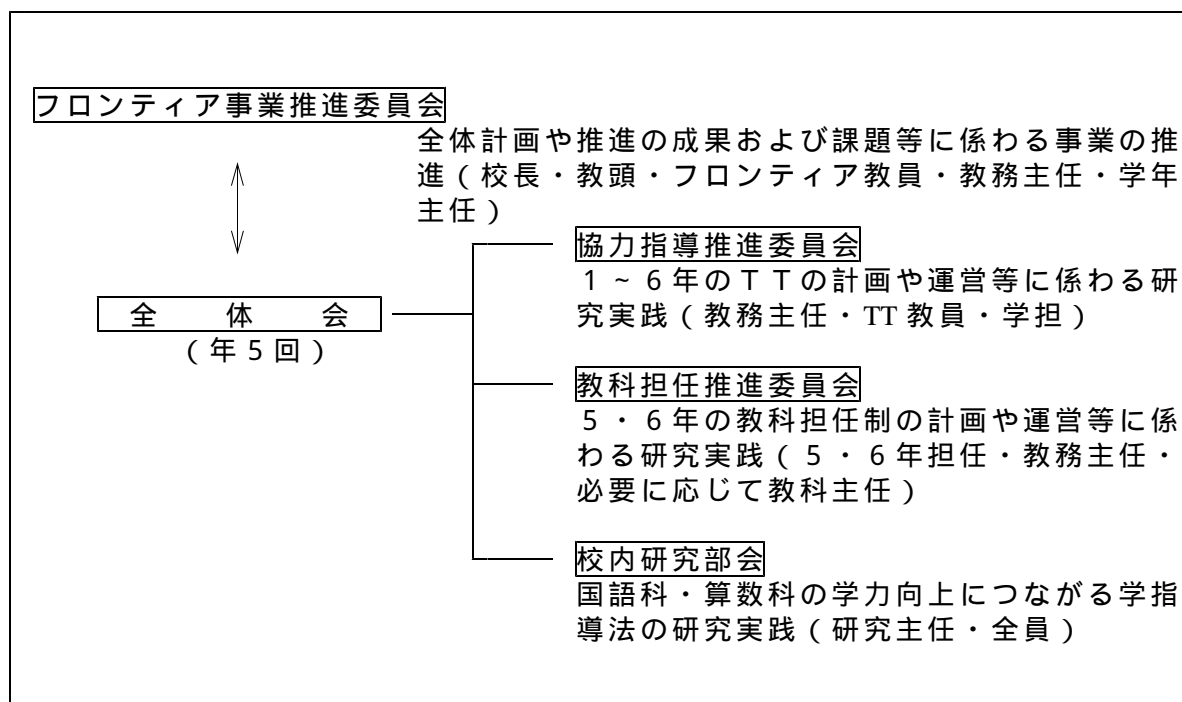
| | |
|----------------|---|
| 平成 14 年度 | <p>テーマ 基礎・基本の定着を図る指導の工夫 T Tと小学校における教科担任制を通して(国語科・算数科)</p> <p>仮説 チームを組んで、一人一人の児童の理解度や習熟度の差をとらえ、個に応じた補充指導や発展指導を進めることにより、児童の基礎・基本の確実な定着がなされるだろう。 教師の得意分野や専門性を生かした教科担任制をとって指導することにより、基礎・基本の定着が図られるだろう。</p> <p>研究内容・方法 (1) T Tの実施 (2) 教科担任制の実施 (3) 朝自習や放課後の時間(チャレンジタイム)を利用した補充的な指導・発展的な指導の推進 (4) フロンティア事業にかかわる評価とその改善 (5) 教材整備や開発、および実践の周知</p> |
|----------------|---|

| | |
|----------------|---|
| 平成 15 年度 | <p>テーマ 基礎・基本の定着を図る指導の工夫 T T制と教科担任制による学力の充実を目指して</p> <p>仮説 基礎・基本を定着させるためには、学級内での習熟度別学習や教室の枠を取り外した習熟度別学習が効果的だろう。 教師の得意分野や専門性を生かした教科担任制をとって指導することにより、基礎・基本の定着が図られるだろう。</p> <p>研究内容・方法 (1) T Tの実施と評価 (2) 教科担任制の実施と評価 (3) T Tや教科担任制に係わる教材の開発 (4) 実践の周知</p> |
|----------------|---|

| | |
|----------------|--|
| 平成 16 年度 | <p>テーマ(仮題) 基礎・基本の定着を図る指導の工夫 補充・発展学習の充実と学習の習慣化をめざして</p> <p>仮説 補充学習や発展学習を計画的に実践することにより学習への主体的な態度が育成され、学びの習慣化が図られるだろう。</p> <p>研究内容・方法 (1) 補充・発展学習のシステム化</p> |
|----------------|--|

- (2) 発展学習の教材開発
- (3) 学習習慣形成の調査
- (4) 実践の周知

(2) 研究体制



平成15年度の成果及び課題

1. 研究の成果

【TT制授業】

ア TTによる国語の授業は、学級内を興味と特性から2つのコースに分かれて学習することでねらいに迫っていくコース分岐型学習と学年を4つのコース8つの課題別コースに分けそれぞれ内容を確実にしさらに課題間やコース間で交流することで深めていく課題別コース交流型学習が提案され、「書くこと」「話すこと・聞くこと」の学習に効果が見られた。

イ TTによる算数の授業は、中学年で習熟度別学習を数単元実施した。学年プラス協力指導教員で、基礎となる内容を学習した後個々に自力解決する児童を支援することで学ぶ意欲を維持しながら学習のステップを上げていくことができた。また、学級TTを中心に単元の最後に学年全体の習熟度別学習を行うことで基礎・基本の定着を図る実践も行った。技能を高め理解を深めることができるコース別の学習の場を設けたことで児童が自分のペースで安心して学習し、さらに次の学習課題に向かう意欲が高まった。学年の習熟度別学習は児童が意欲的だった。

ウ 高学年の国語と算数の教科担任の授業に週1時間ずつTTで指導することで、

国語では文章を書く力を付けることができた。また、算数では数学的な思考力を付けることが可能になった。ＴＴで指導するとつまずきのある児童への支援がきめ細かにでき学級内の習熟度差への対応の幅が広がった。

【教科担任制】

ア 教師の特性を生かした担当教科制を行うことで、児童は複数の教師の個性、指導法に触れることになり、学ぶ意欲を高めることができている。意識調査では、90%を超える児童が歓迎し、「嫌いだった教科が好きになった(55%)」、「前より家庭学習をするようになった(34%)」、「成績が上がった(24%)」などの変化を確認しながら意欲的に学習している。

イ 教師の専門性や持ち味を生かすための教材研究が教師の自覚のもとに進められ教材開発や授業作りについて研究が深められ、「わかる授業」「達成感のある授業」を目指すなど意識が高まった。

ウ 同目標の授業を繰り返し学級をかえて指導することで授業改善が即時に行われ授業の評価を生かし絶えず授業の質を高めることができる。

エ 児童の実態を捉えるために机間指導や座席表を活用して指導にあたることで、個のつまずきに対応でき基礎・基本の内容の確実な定着に向けて授業改善が進んだ。

【教材開発】

ア 各学年で年間3単元の教材開発に努め、開発教材集を作成した。単元指導計画と実践記録等から次年度以降の取り組みに生かすことができる。

イ 算数の発展問題を中心に開発し発展問題集を作成し、中間発表会では成果の1つとして参会者に提供できた。これは、授業や放課後学習(チャレンジタイム)等の時間に活用され、児童の関心・意欲を喚起し主体的な学びの場に生かされた。

【朝自習、チャレンジタイム】

ア 朝自習では、児童の学力の要となる「読み・書き・計算」を中心にドリル的に継続してきたことで学年相応の力がついてきた。

イ チャレンジタイム(放課後20分間)は、朝自習と関連させた使い方や補充指導の時間、また、基礎・基本を使って発展問題に取り組む時間として各学年の創意ある活用をしてきた。3学期に入ってやり方を一部変更し(時間帯を昼に)全校的に統一した。スクリーニング問題でみた児童の力に応じて2ないし3のコースから選択して取り組ませることで学力の定着とその児童なりの向上を目指すようにしている。

2. 今後の課題

【指導体制作り】

ア 学年の児童の実態に応じた取り組みを強化するためにＴＴの配置や時間割を工夫し習熟度別学習や課題別学習さらに少人数指導などが行いやすくしなければならない。

【ＴＴ制の授業】

- ア 学年での習熟度別の学習を進める場合、学年での準備の時間（打ち合わせや話し合い、教材研究の時間、日常的な反省や改善のための検討の時間）を確保することが難しい。そのため、年間に数単元しか実施できなかった。指導の効果を上げるためには、系統性を考えて重点的に取り組む必要がある。
- イ 習熟度差に対応した補充教材の準備や発展教材の開発を各学年で年間分作成し活用していく必要がある。
- ウ 学年の習熟度別学習では、児童の実態の把握と指導経過や評価が共通になされ指導者間で情報交換を密に行わなければならない。評価カードの形式や内容を改善する必要がある。

【教科担任制】

- ア 教科担任制の授業の利点を生かし、学年の実態を踏まえた重点的内容の教材開発と学力向上のための指導課程の工夫改善に努めなければならない。
- イ 児童についての情報交換のための時間が十分に取ることができない。学年打ち合わせの時間の設定を工夫している。
- ウ 教科担任制のデメリットについても確認し合い、それを補いながら実践を重ねていきたい。

【その他】

- ウ 児童の学習への主体性をどのように育てていくか、家庭での学びの習慣化も含めて調査・研究を進めていかなければならない。

学力把握のための学校の取組について

1 NRT（４月）とCRTの実施（２月）

平成14年度の学習状況についてCRTとNRTの2学力検査を実施したことにより以下のことが明らかになった。

ア NRTによると国語の平均偏差値が53.3、算数は53.9で前年度に比べ国語は0.6ポイントの上昇があった。どの学年においても全国値を上回っていた。

イ 学力を知能との相関で見ると、オーバーアチーバー14%、アンダーアチーバー5%で、アンダーアチーバーの割合が2%低くなった。

ウ CRTの結果から観点別の到達状況をみると、国語では「聞く・話す能力」と「言語についての知識・理解・技能」が83%、「書く能力」74%、「読む能力」70%だった。算数では「数量・図形の知識・理解」89%、「表現・処理の力」88%、「数学的な考え方」73%であった。どの観点も全国値を上回った。

これら児童の実態を踏まえて、重点内容等を検討し学習指導の工夫・改善に努めた。

平成15年度の学習状況を捉えるCRT（2月実施）の結果とNRT（4月予

定)により平成16年度の重点を決める。

2 漢字計算一斉テスト(8月、1月)

基礎的な学力の定着を目指して、長期休業後に年2回行っている。第1回テストの全校平均は、漢字が88.4点、計算が89.3点だった。朝自習と放課後学習(チャレンジタイム)の取り組みの工夫・改善を図ったことにより第2回テストでは、漢字が93.8点、計算が93.4点に達し成果が見られた。

3 学校評価における児童の学習状況評価(年3回) 教育課程の評価と改善

4 児童の意識調査(7月)

TT制と教科担任制についてどのように感じているのか意識調査を実施した。

TT制の授業について、「よい(95%)」と応える理由は、「2人の先生に教えてもらい楽しい」「わからないときすぐに教えてもらえる」「勉強する気持ちが強くなる」が多く、「あまりよくない(5%)」の理由には「慣れない」「落ち着かない」「緊張する」が挙がっていた。以前との比較では、「勉強がわかるようになった」「嫌いな教科が好きになった」と応えた児童が60%を越えていた。

教科担任制の授業については、「よい(91%)」の理由の「いろいろな先生に教えてもらい楽しい」「教え方がいろいろあって楽しい」は、65%に達した。一方、「よくない(9%)」とする児童の理由は、「慣れない」「勉強がわからない」としている。

以上の調査結果を踏まえて今後の学習指導に役立てることを心がけた。

フロンティアスクールとしての成果の普及について

1 フロンティアスクール事業公開発表

(1)平成15年度公開発表

日時 10月29日(水) 13:00~

場所 五戸町立五戸小学校

テーマ 基礎・基本の定着を図る指導の工夫

対象 三八管内小中学校、県内フロンティア研究推進校

参加者 240名

内容 公開授業(6)、研究発表、分科会協議

1年国語「よくみてかこう」 学級TT コース別学習

4年算数「わり算(2)」 学年TT 習熟度別学習

5年理科「おもりの重さとはたらき」 学級TT 課題選択学習

5年国語「わかりやすく工夫して書こう」 教科担任制

6年国語「海の命」 教科担任制

6年算数「体積」 教科担任制

配布物 研究発表会要項、指導案集、算数発展問題集

(2)平成16年度公開発表(予定)

日時 10月29日(金) 9:00~

| | |
|-----|--|
| 場所 | 五戸町立五戸小学校 |
| テーマ | (仮題) |
| 対象 | 三八管内小中学校、県フロンティア研究推進校 |
| 内容 | 公開授業(6)、補充・発展学習、分科会、研究発表 |
| 2 | 三八管内教務主任研究協議会での発表(教務主任) |
| 3 | 三八管内校長研究協議会での発表(校長) |
| 4 | 教育課程地区集会全体会での発表(フロンティアティーチャー) |
| 5 | 青森県総合学校教育センター「ティームティーチング研修講座」での発表 (フロンティアティーチャー) |
| 6 | 便りや参観日等を利用した保護者への周知 7月の参観日には、TT制や教科担任制の授業を参観してもらい、保護者アンケートを実施した。TT制の授業については97%、教科担任制の授業の推進については98%の保護者の賛成の声を得て、不安の解消や意見に応えることにも努めている。 |
| 7 | HP - URL http://www.hi-net.ne.jp/~hiscgn04 |



次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】

15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】

6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】

少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】

| | | | |
|--|-----|--|----|
| <input checked="" type="checkbox"/> 国語 | 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 | 理科 |
| 生活 | 音楽 | 図画工作 | 家庭 |
| 体育 | その他 | | |

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】

有 無